
京大上海センターニュースレター

第 58 号 2005 年 5 月 23 日

京都大学経済学研究科上海センター

目次

- 上海センター・ブラウンバッグランチセミナーのご案内
- 上海センターシンポジウム「日中間の”政冷経熱”をどう打開するか」のご案内
- 最近の反日騒動に関するわが社の現状と方針

上海センター・ブラウンバッグランチ(BBL)セミナーのご案内

第 5 回 中国における都市・農村間の教育格差

講師 京都大学大学院農学研究科 沈金虎 講師

日時 2005 年 6 月 7 日 (火) 午後 12 時 15 分～13 時 45 分 (食事持ち込み可)

場所 法経総合研究棟 1 階演習室 107

+++++

上海センター・シンポジウム「日中間の”政冷経熱”をどう打開するか」のご案内

報告者 時 殷弘 (中国人民大学国際関係学院教授、アメリカ研究センター主任教授)

高井潔司 (北海道大学国際広報メディア研究科教授、元読売新聞北京支局長)

竹内 實 (京都大学名誉教授)

司会 本山美彦(京都大学経済学研究科教授)

日時 7 月 1 日(金)午後 2:00-6:00 **会場** 京都大学時計台記念館百周年記念ホール

最近の反日騒動に関するわが社の現状と方針

株式会社小島衣料代表取締役小島正憲(4 月 24 日記)

1. 小島衣料関連の中国工場の現状

小島衣料関連の中国会社は、すべて平穏で正常に稼働しており、反日騒動の影響は皆無である。今後、仮にこの騒動が拡大した場合でも、小島衣料の基幹工場である美島会社と美旭会社は、ともに中国側との対等出資の合弁会社であるから、騒動には合弁相手の中国側当事者が事態に対処することとなり、安定操業を確保することが可能である。ことに美

島公司是湖北省黄石市にあり、社歴15年、外貨獲得では湖北省の数少ない優秀な企業であり、地元政府にとっては不可欠の企業である。しかも設立当初から中国側当事者や、黄石市行政ときわめて良好な関係を維持している。小島正憲自身についても、湖北省や中国中央政府から中国の発展に寄与したとして荣誉賞を贈られており、しかもこの騒動の最中の4月12日に、黄石市公安局から、直々に「外国人永久居留証」をもらっており、地元政府や市民とはまさに朋友の間柄となっている。したがってよほどの騒動でない限り、工場が影響を受けることはない。

美旭公司是上海市青浦区趙屯鎮にあり、社歴は13年、中国側当事者は鎮政府の外郭組織である。美旭公司是趙屯鎮の最初の外資企業であり、設立以来、毎年中国側に相当額の配当を支払い続けており、きわめて良好な関係を続行している。総務や労働組合などの工場幹部にも、地元出身者が永年勤続しているため、工場が外部からの影響を受け、騒動などに巻き込まれることは考えられない。

その他、小島衣料が独資で展開している桜島公司・友島公司・偉馳公司等も、正常に稼働している。これらの公司是規模が小さいため、日本人幹部が全従業員の動向をしっかり把握しており、事業の伸縮も自在であり、今後も反日騒動の影響を受けることはまったくくない。

2. 上海における反日騒動の状況と見通し

わが社の偉馳公司の入居している世貿商城は、日本総領事館と対面している。また私とわが社の社員の居住しているマンション（新世紀広場）も総領事館のすぐ側にあり、1階の日本料理店などが破壊されるのを実況中継できるほどだった。この点で、私たちは、今回の上海における反日騒動については、日本や中国での報道を検証できる絶好の位置にいたわけである。渦中の当事者として、今回の騒動の状況をまとめてみると、下記のようなになる。

- ① 10日ごろから、インターネット上で反日デモのよびかけが行なわれた。それは過激なものではなくて、投石や破壊を戒め、整然としたデモを行なおうとよびかけられていた。
- ② 4日、上海在住のすべての携帯電話保持者に、公安当局から「デモ参加を自粛」のメールが入った。
- ③ 16日午前10時ごろ、上海の各地に集結した若者が、日本総領事館に付近に結集した。約1万3千人。
- ④ 公安や武装警察とのこぜりあいが続いた後、総領事館への投石がはじまり、近所の日本料理店の破壊が行なわれた。公安はそれを制止しなかった。
- ⑤ 午後4時ごろまで続き、デモ参加者はその後、じょじょに解散した。
- ⑥ 最後まで4～500人ほどが座り込んでいたが、公安になだめられ、準備されていたバスに乗り込んで解散した。
- ⑦ 翌朝、上海市政府関連の人が、日本料理店などに被害の状況調査にきて、損害賠償の用意があると話した。
- ⑧ その後の1週間は平穏であった。
- ⑨ 23日の朝8時、公安および武装警察（約3000人）が、総領事館の周りを完全に防御した。デモなどはまったくなかった。

これらの状況から、今回の騒動に関する日本でのマスコミ報道はおおむね正確であったと評することができる。今回の反日騒動の本質については、現在、多くの角度から分析中であり、他の情報も含めて検討中であり、見通しを断言することはできない。しかしその後の中央や上海政府の対応を見ているかぎりでは、今後、大きな拡大はないと推測できる。

広州では交易会に影響が及ぶことを配慮し、嚴重に警戒したことなどを考えると、たくさんの大きな国際展示会がある上海でたびたびこのようなことが起きれば、上海市の経済的打撃はきわめて大きくなるのは必至なので、今後はデモなどを押さえ込むであろう。ことに上海総領事館の目の前には、世貿商城と国際貿易センタービルがあり、ともに大きな国際展示会場を持ち、頻繁に展示会を行なっているから、大きな騒動が起きれば大損失となる。これは SARS のときに国際級展示会がたくさん中止されたことで、その損失については痛感済みでもある。広州では、日系企業で反日名目のストライキが行なわれたようであるが、実態は不明である。おそらく他の原因との相乗の結果ではないだろうか。これも現在調査中である。

3. 当面の小島衣料の方針

A. 今期の中国戦略を積極的に展開する。

政治とビジネスは別であるから、友好的な関係を保持しつつ、事業を粛々進める。むしろ他社が躊躇しているときこそ、合

弁公司を中心とするわが社の有利さを活かして、事業を遅滞なく展開する。ことに今期の中国戦略の主眼である武漢と上海での新規2工場を進展させる。

B. 小島衣料の中国派遣社員は、下記を行動指針として、勤務に精励すること。

①政治の問題について、個人的な見解を聞かれた場合は、余計なトラブルに巻き込まれないために、下記のように答えること。

「私はビジネスのために中国に来ているので、平等互惠の立場で、事業が成功するように全力をあげて努力をします。ただし日中間の政治的な問題に関する個人的な見解は、発言を控えさせていただきたい。政府間交渉で、結論が出れば日本人として、それに従います」

②日本人として、この問題について、卑屈になる必要はない。

上海市内で日本人として、肩身の狭い思いをするのではなく、堂々と胸を張れ。料理店やタクシーなどで日本人かと聞かれた場合、堂々と日本人と答えること。もちろん危険な場所に近寄ることを控えるべきであるが、日本人であることを隠すような卑屈な態度は取るべきではない。もしそのことによって、暴力を振るわれた場合は、毅然として無抵抗・非暴力で対応すること。暴力の応酬からは何も産まれないからである。この毅然とした無抵抗・非暴力を貫くことによって、日本人の精神の気高さを示すこと。ここで大ゲンカをしてみても、それは蛮勇の類である。

③一般の中国人に対しては、従前通り、心の底から敬意を払うこと。

原則として、いかなる場合でも、すべての人間に敬意を払うべきであり、人種、国籍、性別、職業などで、人間を差別視してはならない。ことに中国人に対しては、かつて日本が中国を侵略し大きな迷惑をかけたことは事実であるから日本人として贖罪意識を持つことが必要である。さらに小島衣料は中国の地で、中国人と共存することによって、事業を成立させているわけだから、この人たちに儲けさせていてほしいという感謝の念を、心の中で抱いていなければならない。掃除や賄いのおばさん、門衛のおじさんにもしっかり敬意を払うこと。

④工場内では、日本人として率先垂範、労働模範となるように勤め、中国人から尊敬されること。

中国人労働者は、日本人をしっかりと監視している。彼らの目の前で、日本人の高度な技術をしっかりと伝授し、日本人の仕事に取り組む真摯な態度を学ばせること。

⑤その上で、日本人は技術指導者であり、品質管理者でもあるから、仕事上では妥協な

くその任務を果たすこと。

規律違反などについては妥協なく注意し、品質基準に満たないものは厳格に処分しなければならない。たとえ中国人社員が反日的な態度で挑んでも、この点では妥協してはいけない。しっかり理由を示して、納得させること。

- ⑥しかし、いたずらに居丈高にならないこと。威張らないこと。中国人の自尊心を傷つけるような言動は絶対に慎むこと。
- ⑦小島衣料の中国派遣社員はお金を儲けるために、中国で仕事をしているわけであるから、その意味では、日本人のプライドや面子を捨てても、お金を儲けた方が勝ちである。だからたとえ卑屈な人間と見られようとも、必要な妥協は行なうことが大事である。たとえば、賄いのおばさんやマンションの門衛さんなどにはチップをはずみ、友好的な関係を保っておいた方がよい。タクシーで乗車拒否に会いそうになったら、泣きついて乗せてもらえばよい。それぐらいしたたかな日本人になることがのぞましい。
- ⑧上記の注意事項はすべて忘れてもよいが、これだけは絶対に行なうこと。
小島衣料採用の中国人社員の立場を理解し、彼らが窮地に陥った場合は体を張って助けること。

反日騒動でもっとも苦しんでいるのは、小島衣料関連会社に勤務している小島衣料採用の中国人社員である。彼らは日本人と中国人との間で、板ばさみになって困っている。反日騒動の場合、一般の中国人の非難や打撃の対象は、まず最初に日系企業に勤める中国人に向かう。つまり日ごろ日本人のために仕事をしてきている中国人が、「日本人のイヌ」とさげすまれて、暴力の対象になるのである。この場合、日本人は毅然として彼らを守るために、盾となり犠牲になるべきである。彼ら中国人を、体を張って助けなければならない。